

良田地区

平成24年度の
発掘調査成果！



良田平田遺跡

よしだ ひらたいせき

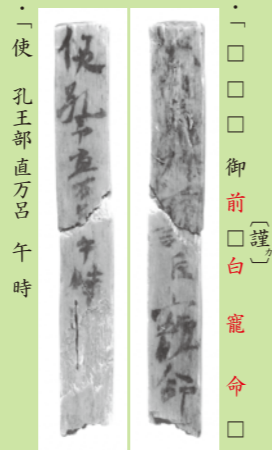
飛鳥時代末の役所関連施設
がみつかりました！



▲飛鳥時代末の掘立柱建物

柱穴の底には、柱が沈みこむのを防ぐための礎盤石が置かれていました。

銅銭「和同開珎（わどうかいちん）」
※708（和銅元）年初鑄



▲木簡



良田平田遺跡では、古墳時代（4世紀）から奈良時代（8世紀）にかけての掘立柱建物や溝、井戸、鎌倉～室町時代（13～15世紀）の田んぼなどがみつかったほか、多量の遺物が出土しました。

遺物の中には飛鳥時代末（7世紀末～8世紀初め）の文書木簡（当時の行政文書にあたる木簡）や硯があり、この遺跡に古代の役所関連施設が存在したことがわかりました。

良田中道遺跡

よしだ なかみちいせき

中世～縄文時代の遺構を確認しました！

良田中道遺跡では、中世・古代の田んぼのあぜや、古墳時代の溝と護岸施設、縄文時代の流路などがみつき、古墳時代の溝からは「泥除け付きの鍬」や「田下駄」などの農具が出土しました。また、その周辺では保存状態の良い「袋状鉄斧」もみつかりました。

調査は来年度も継続して行う予定となっており、さらなる調査成果が期待されます。



泥除けが付いた状態の鍬



保存状態の良い袋状鉄斧



縄文時代終わり頃の流路

鳥取西道路の遺跡を掘る！

第47号 2013年3月21日

現在、土器の復元をおこなっている高住牛輪谷遺跡の出土遺物の中に、メガホンのような形をした「山陰型甑形土器」と呼ばれる珍しい土器があることがわかりました。



- ① 桂見鍋山遺跡(鳥取市桂見地内)
- ② 東桂見遺跡(鳥取市桂見地内)
- ③ 高住牛輪谷遺跡(鳥取市高住地内)
- ④ 高住井手添遺跡(鳥取市高住地内)
- ⑤ 高住平田遺跡(鳥取市高住地内)
- ⑥ 良田平田遺跡(鳥取市良田地内)
- ⑦ 良田中道遺跡(鳥取市良田地内)

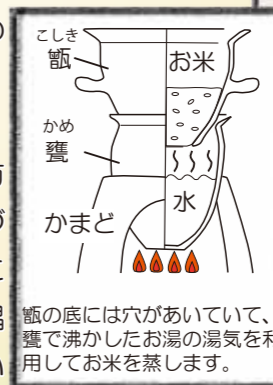
何に使った？謎の大型土器

右の写真が、「山陰型甑形土器」と呼ばれる土器です。

「山陰型」というのは、山陰地方で多く出土していることに由来します。最も古い形のものも山陰地方から出土しています。また、外側に把手を持つものが多く、底がないことが、お米などを蒸す「甑」（下図）に似ていることから、「甑形土器」と呼ばれています。四国や九州などからも、ときどき出土します。

高住牛輪谷遺跡の「山陰型甑形土器」は、高さが約60cm、下の広い方の直径が約40cmで、上下に輪っか状の把手があります。この土器は、弥生時代後期から古墳時代前期（約1700～1800年前）の住居跡から多く見つかりますが、高住牛輪谷遺跡では、古墳時代前期の地層から出土しました。

ところがこの土器は、「甑形」と言いながらもどのように使われていたのか分からない謎の土器なのです。広い方を上にして蒸し器として使った、狭い方を上にして燻製づくりに使ったなど、諸説があります。また、お隣の韓国には似たような形の土器があり、煙突として利用した説も唱えられています。一体何のために、どのように使われていたのでしょうか。みなさんも、新説を考えてみませんか？



甑（蒸し器）の使用
方法



高住牛輪谷遺跡出土の
「山陰型甑形土器」

(財) 鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所
〒680-1133
鳥取市源太12番地
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)
TEL: 0857-51-7553
FAX: 0857-51-7550
メールアドレス:
tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com

発掘通信

今月号では、今年度の発掘調査で得られたたくさんの成果を振り返りました。来年度も、新たな調査成果を「遺跡を掘る！」にのせてお届けします。どうぞお楽しみに！！

◎良田平田遺跡出土木簡等の展示を行っています◎
期日：3月6日(水)～4月7日(日) 場所：鳥取県立博物館
是非ご覧ください！

鳥取県教育文化財団 調査室

桂見地区



今年度の調査成果！



東桂見遺跡

ひがしかつらみいせき

桂見鍋山遺跡

かつらみなべやまいせき



水田跡（白線は水田のアゼ）



竪穴住居跡



縄文土器出土状況

東桂見遺跡では、中世の水田の下に古墳時代中期（5世紀頃）から古代にかけて厚さ約1mの泥炭層が堆積しています。泥炭層は湿地の環境で発達するもので、この期間は水田などには利用されなかったようです。そのおかげで、泥炭層の下にはとても状態の良い古墳時代前期（3世紀後半から4世紀頃、話題の「箸墓古墳」が造られた頃です。）の水田がパックされていました。

また水田の隣には、溝を挟んで古墳時代前期の竪穴住居跡が3棟ありました。近接していて、屋根を架けると軒がぶつかってしまうことから、建っていた時期が異なる住居の跡と考えられます。

古墳時代の水田の下からは、弥生時代や縄文時代の土器が出土しました。現在の地面から約4.3m下（標高約3m）の地点から、今年度の調査では最も古い、縄文時代前期末（約5000年前）の土器が見つかりました。来年度以降、さらに深く掘り下げて調査をする予定です。

何がみつかるかお楽しみに！



水田跡（白線は水田のアゼ）



水口検出状況

アゼが途中でできており水量を調節する板がはめこまれている

さらにこの遺跡では、水田の水の量を調整する水口が見つかりました。中には、水を堰き止める板を設置した状態で検出した水口もありました。当時、こうした水の管理をし易くするためには、東桂見遺跡や桂見鍋山遺跡の水田の広さが好都合だったのでしょう。

高住地区



平成24年度の発掘成果
Play Back!!



高住平田遺跡では、縄文時代前期（約6000年前）から中期（約5000年前）にかけての土器や石器が多く出土しました。石器には漁網のオモリと考えられる「石錘」が多く、当時は日本海の内湾となっていた湖山池でさかんに漁を行っていた縄文人たちの姿を想像することができます。



噴砂の痕跡

また、地震によって生じた噴砂の痕跡や地層の変形も確認されました。数千年の歴史の中で、大きな地震が何度か発生したようです。

高住平田遺跡

たかすみひらたいせき

現在、出土した土器を整理室で復元しています。細かな破片を接合していくと、全体の形だけでなく、表面の縄文や文様がみえてきます。



縄文時代の石錘



高住井手添遺跡では、縄文時代中期（約5000年前）、縄文時代後期（約4000年前）、弥生時代中期（約2100年前）の溝が見つかりました。このうち弥生時代中期の溝には、堰や護岸施設とみられる木製の構造物が設けられていました。これらの構造物は、組み合わせた木材の上に樹皮を貼ったり、木の枝や草を敷いて盛土をするなどした丈夫なものです。洪水などで壊れては新たに作り直したり、修復したりと、水の利用にかけた弥生人の思いがうかがえます。



木製容器の把手部分

高住井手添遺跡

たかすみいでそえいせき

さらに溝の埋土中や構造物内からは精巧な木製容器や農具が出土しました。当時の土木技術、木工技術の高さを知ることができます。



弥生時代の溝の護岸施設

高住牛輪谷遺跡では、縄文時代後期（約4000年前）から中世（約500年前）までの土器や木製品などが出土しました。このうち、縄文時代後期の地層からは、製作時に底に敷かれていた編み物のあとが残った土器のほか、ドングリを集めた貯蔵穴などが見つかりました。また、古墳時代後期（約1400年前）の竪穴住居跡もみつっています。



高住牛輪谷遺跡

たかすみうしわだにいせき

現在、遺跡から出土した遺物を整理中です。たくさんの土器のほか、陶製の棺、木製の編み具や下駄など、さまざまな遺物がみつっています。



ドングリを貯蔵した穴